

歴史は未来の羅針盤

# 温故知新

いよいよ3月に「近江日野の歴史 第7巻 日野商人編」が刊行されることになりました。近江日野商人館には、日野商人に関する具体的な資料が展示されています。ぜひ商人館へお越しください。  
(月曜日・金曜日休館)

昨年12月から今年1月にかけて、近江日野商人館で「がんばろう日本！ たるまさんサミット」を開催しました。  
日野商人とたるま人形の深い関係についてご紹介します。

## 日野商人とたるま人形

日野地方では、江戸時代以来、日野商人のことを「関東兵衛」と言い、その妻を「関東後家さん」と呼び慣わしてきました。故・山中園さん(西大路)も関東後家さんの一人で、関東の出店にいる夫に代わり、女手一人で本宅を守りながら、内助の功に努めておられました。

山中園さんの帯締めには、「たるま」と「般若」の帯留めが通されており、自分の心へのいましめとされています。山中園さんの自宅には「たるま部屋」が設けられており、七転び八起きの精神に

あやかろうと、千点以上のたるま人形が集められていました。

夫の店に新しい店員が入つてくると、色紙にたるまの絵を画き、「心をたるまさんように(気をゆるめないように)、しっかりとおきばりやす！」と励まし、「たるまさん精神」を訓辞とすることを、長年、続けておられました。本宅で夫の陰膳(かげぜん)を供え、常に気をひきしめていた関東後家さんの生き様には、現代人にとって学ぶべきものが多くあります。



▲故・山中園さん直筆の色紙

## たるまさん精神を発信

山中園さんの生き様を知り、感銘を受けられた人も多く、故・櫻本善兵衛さん(西明寺)もその一人でした。

妻を早くに亡くし、子育て等に奮闘中であつた櫻本さんは、山中園さんの「たるまさん精神」に感銘を受け、「自分も、心をたるまさんようにがんばらねば・・・」と、たるま人形を三十年以上にわたつて収集され、「たるまさん精神」を座右の銘とされてきました。

このような日野地方に伝わる「たるまさん精神」を広く世に知らせるべく、櫻本家をはじめとする日野町内の数千点のたるま人形を一室に集め、「たるまさんサミット」を開催しました。

表情や形、彩り豊かなたるま人形が展示され、紙製や木製、陶器でつくられたものなど材質もさまざま。両手で抱え込むほど大きな



▲商人館に展示されたたるま人形。形も大きさもさまざま

### 『近江日野の歴史』第7巻 日野商人編 発刊記念講演会

とき 3月17日(土)  
午後2時から  
(受付：午後1時30分から)

ところ 日野公民館

内容

「日野商人編の編集を終えて」  
宇佐美英機氏(滋賀大学教授)  
「日野商人の出店について」  
鈴木敦子氏(大阪大学大学院経済学研究科資料室助手)

ものから、親指ほどの小さなものまでが集められました。  
平成二十四年こそ明るい日本の兆しが見えますよう、「心をたるまさんように、がんばろう日本！」  
近江日野から「たるまさん精神」を全国に発信しました。